

第91回日本医学会定例評議員会

日時：2024年2月21日（水）Web開催

午後2時開会

議長（門脇 孝日本医学会長） 時間になりましたので、第91回日本医学会定例評議員会を開催いたします。ご多忙のところをご出席いただき、ありがとうございます。今回はwebでの開催とさせていただきます。午後1時55分現在83学会出席で、142学会中の58%が出席しております。欠席は17学会ですが、今後お入りになると思います。また、代理出席のすべての評議員の方から委任状をいただいております。評議員会は1/2以上の出席があれば成り立ちますので、この定例評議員会は成立しております。

日本医学会定例評議員会は学会長が議長となることが日本医学会規則第13条で決まっておりますので、私が議長として進行させていただきます。本日は、日本医師会から松本会長、角田副会長、釜薙常任理事にご出席をいただいております。

日本医師会長挨拶

議長（門脇 孝日本医学会長） 初めに、松本日本医師会長にご挨拶をお願いしたいと思います。松本先生よろしく申し上げます。

松本吉郎日本医師会長 挨拶に先立ちまして、このたびの石川県能登地方を震源とする令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。また、地震発生直後からいち早く現地へ赴き、DMATやJMATとして医療支援活動にご尽力いただいている皆様に、心より御礼を申し上げます。

日本医師会でも発災直後より会内に災害対策本部を設置し、担当役職員等を現地に派遣する中で、

医師会や県医師会をはじめとする被災地との緊密なる連携のもとで支援にあたってまいりました。今後も引き続き医療を通じた支援、復興に努めてまいりますので、本日お集まりの皆様におかれましても、特段のご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは改めまして、日本医学会定例評議員会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。昨年9月に門田守人前日本医学会長がご逝去されたことは大きな驚きであり、医療界にとっても大変大きな損失でしたが、12月には新たな役員も決まり、門協会長のもと新しい体制でのスタートをされたことを心よりお慶び申し上げます。

現在、医師の地域・診療科医の偏在や、専門医の人材育成の問題、研究医不足の問題等、医学・医療界を取り巻くさまざまな問題がございます。これらについては日本医学会のみならず日本医師会としても重要な問題として重く受け止めており、今後も日本医学会と連携をとりつつ、協議しながら解決できる道筋を検討してまいりたいと考えております。

最後に、門協会長の強力なリーダーシップのもと、日本医学会が今後ますます発展されますよう祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

■議事録署名人

議長（門脇 孝日本医学会長） それではこれより議事に入ります。最初に議事録署名人の選出をいたします。議長が指名することになっておりますので、私から指名させていただきます。基礎・社会医学系から、日本公衆衛生学会の谷川 武先生、臨床医学系は日本自律神経学会の黒澤美枝子

第 91 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本医真菌学会 (連)	若山 恵	日本臨床細胞学会 (代)	田畑 務
日本解剖学会 (連)	尾崎 紀之	日本農村医学会 (欠)		日本透析医学会	武本 佳昭
日本生理学学会 (連)	平野 勝也	日本糖尿病学会	植木浩二郎	日本内視鏡外科学会	羽瀨 友則
日本生化学会	菊池 章	日本矯正医学会	新妻 宏文	日本乳癌学会 (欠)	
日本薬理学会 (連)	櫻井 隆	日本神経学会	西山 和利	日本肥満学会 (欠)	
日本病理学会 (代)	田中 伸哉	日本老年医学会 (連)	大石 充	日本血栓止血学会	山崎 昌子
日本癌学会	間野 博行	日本人類遺伝学会	松本 直通	日本血管外科学会 (連)	保科 克行
日本血液学会 (欠)		日本リハビリテーション医学会 (連)	佐浦 隆一	日本レーザー医学会	中村 哲也
日本細菌学会 (欠)		日本呼吸器学会 (連)	高橋 和久	日本臨床腫瘍学会 (欠)	
日本寄生虫学会	丸山 治彦	日本腎臓学会	鈴木 祐介	日本呼吸器内視鏡学会	浅野 文祐
日本法医学会	神田 芳郎	日本リウマチ学会 (欠)		日本プライマリ・ケア連合学会	草場 鉄周
日本衛生学会	黒田 嘉紀	日本生体医工学会	黒田 知宏	日本手外科学会 (連)	田尻 康人
日本健康学会	本田 靖	日本先天異常学会	黒澤 健司	日本脊椎脊髄病学会	波呂 浩孝
日本栄養・食糧学会	吉田 博	日本肝臓学会	竹原 徹郎	日本緩和医療学会 (欠)	
日本温泉気候物理医学会 (連)	早坂 信哉	日本形成外科学会	貴志 和生	日本放射線腫瘍学会	宇野 隆
日本内分泌学会 (連)	有馬 寛	日本熱帯医学会	山城 哲	日本臨床スポーツ医学会	山澤 文裕
		日本小児外科学会	小野 滋	日本熱傷学会	松村 一
日本内科学会 (連)	高橋 裕樹	日本脈管学会	古森 公浩	日本小児循環器学会	山岸 敬幸
日本小児科学会 (連)	滝田 順子	日本周産期・新生児医学会 (欠)		日本睡眠学会	内村 直尚
日本感染症学会 (連)	館田 一博	日本人工臓器学会 (欠)		日本磁気共鳴医学会 (連)	小島 隆行
日本結核・非結核性抗酸菌症学会	磯部 威	日本免疫学会	河本 宏	日本肺癌学会	白田 実男
日本消化器病学会	持田 智	日本消化器外科学会	斎浦 明夫	日本胃癌学会 (連)	吉川 貴己
日本循環器学会	阿古 潤哉	日本臨床検査医学会	大西 宏明	日本造血・免疫細胞療法学会 (欠)	
日本精神神経学会	三村 將	日本核医学会	橋本 順	日本ペインクリニック学会 (連)	金井 昭文
日本外科学会	武富 紹信	日本生殖医学会 (欠)		日本病態栄養学会 (連)	山田祐一郎
日本整形外科学会 (代)	田中 眞希	日本救急医学会 (連)	横堀 將司	日本認知症学会	岩坪 威
日本産科婦人科学会	加藤 聖子	日本心身医学会	福土 審	日本災害医学会 (欠)	
日本眼科学会 (連)	西田 幸二	日本医療・病院管理学会	上條 由美	日本小児血液・がん学会	大賀 正一
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	丹生 健一	日本消化器内視鏡学会 (欠)		日本老年精神医学会	
日本皮膚科学会	天谷 雅行	日本癌治療学会	江口 英利	日本臨床栄養代謝学会	比企 直樹
日本泌尿器科学会	江藤 正俊	日本移植学会	剣持 敬	日本再生医療学会 (代)	星 和人
日本口腔科学会	片倉 朗	日本職業・災害医学会	三上 容司	日本脳神経血管内治療学会 (欠)	
日本医学放射線学会 (連)	陣崎 雅弘	日本心臓血管外科学会 (欠)		日本骨粗鬆症学会	竹内 靖博
日本保険医学会	品川 貴郁	日本リンパ網内系学会	中村 直哉	日本アフェシス学会	山路 健
日本医療機器学会 (連)	南 正人	日本自律神経学会	黒澤美枝子	日本女性医学学会 (連)	寺内 公一
日本ハンセン病学会	向井 徹	日本大腸肛門病学会	板橋 道朗	日本てんかん学会	川合 謙介
日本公衆衛生学会	谷川 武	日本超音波医学会 (連)	平井都始子	日本インターベンショナルラジオロジー学会	村田 智
日本衛生動物学会	桐木 雅史	日本動脈硬化学会 (連)	岡村 智教	日本内分泌外科学会 (欠)	
日本交通医学会 (連)	宮入 剛	日本東洋医学会	三谷 和男	日本骨代謝学会	高柳 広
日本体力医学会 (連)	成田 和穂	日本小児神経学会 (連)	三牧 正和	日本婦人科腫瘍学会	三上 幹男
日本産業衛生学会 (代)	須賀 万智	日本呼吸器外科学会 (連)	伊豫田 明	日本肝胆膵外科学会	遠藤 格
日本気管食道科学会 (欠)		日本医学教育学会	小西 靖彦	日本臨床神経生理学会 (連)	後藤 純信
日本アレルギー学会 (欠)		日本医療情報学会	小笠原克彦	日本食道学会	竹内 裕也
日本化学療法学会	松本 哲哉	日本疫学会 (欠)		日本国際保健医療学会	小林 潤
日本ウイルス学会 (欠)		日本集中治療医学会 (連)	土井 研人		
日本麻酔科学会	山蔭 道明	日本平滑筋学会	眞部 紀明		
日本胸部外科学会 (代)	種本 和雄	日本臨床薬理学会 (欠)			
日本脳神経外科学会	齊藤 延人	日本神経病理学会	柿田 明美		
日本輸血・細胞治療学会 (代)	松本 雅則	日本脳卒中学会	小笠原邦昭		
		日本高血圧学会	野出 孝一		

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

役員 門協会長 高橋・磯・北川副会長

(日本医師会) 松本会長 角田副会長 釜菴常任理事

(幹事) 本間・宮園・今中・刈田・青木・春日・小池・小室・名越・熊ノ郷・池田・木村・齊藤・澤・松本・秋葉・矢富・森

総会 澤会頭 新谷幹事長

先生、いらっしゃいますでしょうか。

谷川 武(日本公衆衛生学会) はい、承知しました。谷川です。

黒澤美枝子(日本自律神経学会) はい、出席しております。よろしくお願ひいたします。

議長(門脇 孝日本医学会長) 谷川先生、黒澤先生よろしくお願ひいたします。

それではただ今から始めたいと思います。最初にお伝えしておきますが、この定例評議員会が終わりましたら、引き続き日本医学会連合の臨時社員総会を開催いたします。皆様にはそのまま残っていただきますようお願いいたします。

この評議員会の議事概要ですが、初めに報告事項として第32回日本医学会総会の準備状況を総会役員の先生方からお伺いし、その後、2023年度年次報告を行います。その際に日本医学会の予算についてもご報告いたします。

次に協議事項として、2024年度の事業計画、2023年度日本医学会加盟学会、学会の名称変更、ゲノム医療法に関する提言の4件についてお諮りします。

なお、報告事項、協議事項についてはこの評議員会の前に開催しました第1回日本医学会幹事会でお諮りしてご承認を得ているものでございます。その後、質疑応答の時間をとり、日本医学会定例評議員会は閉会します。そして閉会に引き続き一般社団法人日本医学会連合の臨時社員総会を開催する予定ですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

日本医学会長挨拶

門脇 孝日本医学会長 それでは一言ご挨拶を申し上げます。昨年9月7日に門田前会長がご逝去されたことは私どもにとっても大変な悲しみであり、大きな損失でございました。そのなかで新しい役員も決まり、門田先生の意思を引き継いで日本医学会の発展のために尽くしていく所存でございます。

日本医学会は日本の医学・医療の進歩・向上を目的とし、142学会が分科会として加わっておりますので、142分科会の先生方との連

携を密にし、日本医学会のミッション達成に努めてまいりたいと思います。私の挨拶はここまでとして、日本医学会長としての所信はホームページ上をご覧くださいと思います。

報告事項

■第32回日本医学会総会準備状況の報告

議長(門脇 孝日本医学会長) それでは、議事進行をさせていただきます。まず、報告事項として、第32回日本医学会総会準備状況の報告を澤芳樹会頭と坂田泰史準備委員長からお願ひいたします。

澤 芳樹第32回日本医学会総会会頭 このたびは、ここで状況を報告させていただくこと、また2027年の第32回医学会総会の会頭を賜れましたことを、改めて先生方に御礼申し上げたいと思います。

記載にありますように、私は会頭を務めさせていただきます。そして副会頭は、門田先生が亡くなられる前に総会のあり方について議論させていただいて、もちろん今までも全国規模でやらせていただいていたのですが、副会頭も全国からお願ひしてこれまでの流れをくみながらさらに盛り上がるようなという意味をいただきながら亡くなられましたので、その意思をついで北海道、東北、関東、東京、そして東海、近畿、中四国、九州とそれぞれの代表の先生方に、私が入脈でお願ひできる範囲で副会頭をお願ひしております。

あと内科系、外科系という大きな枠組みでも副会頭をお願ひしたいということもありまして、内科系は東京大学の南学正臣先生に、外科系は慶應義塾大学の北川雄光先生にお願ひをしております。また準備委員長は、大阪大学循環器内科の坂田先生にお願ひをして、すでに行動を共にいただいております。

顧問につきましては、日本医師会長の松本会長をはじめ、日本歯科医師会、日本看護協会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会等の先生方にお願ひしつつ、さらに近畿の各医科大学の先生方にお願ひをしております。参与につきましては、大阪大

学にご縁のある大阪大学の先輩の先生方を中心に
参加になっていただいております。まだこれはす
べてで最終承認は得ていない部分もございます
が、このような形で今予定しております。

各委員長につきましては、学内の大阪大学で機
動力をあげてリアルタイムに執行していくため
に、学術委員長には大阪大学の免疫細胞生物学の
石井 優先生はじめ、各委員長を大阪大学のなか
で選出させていただいておりますが、もちろん委
員には全国規模でいろいろな先生方に入ってい
だきたいと思っております。幹事長は大阪大学呼
吸器外科の新谷 康先生、準備委員長補佐には大
阪大学の形成外科の久保盾貴先生、いずれにし
ても、若手の先生方を中心に構成させていただ
いております。

会期は2027年4月23日～25日の3日間、場
所は中之島エリア、特に大阪国際会議場とリーガ
ロイヤルホテルを中心に行います。また、学術展
示も同じ場所で1日前から展示させていただき、
一方で一般市民展示につきましては、名古屋大会
のときを見習いまして春休み中に、特にお子様や
家族連れにたくさんご参加いただけるように、3
月20日～28日の春休み期間中にうめきたエリア
で行う予定としております。

メインテーマにつきましてはいろいろ検討いた
しました。コロナを乗り越えた今、私たちが改めて
医学への貢献を振り返りながら、医学が人類を
救ったこのレジリエンスが重要だという観点か
ら、メインテーマは「医学のレジリエンス」とし
て、過去を振り返りながら現在、そして未来に
いろいろな議論を重ねていく。そしてサブタイトル
は「未来への挑戦と貢献」とさせていただいてお
ります。

主務機関はこのような大学。事務局は医学会総
会事務局。事務局長は北川 透、副事務局長が上
野高義。このような構成で準備をいよいよ本格的
に進めている状況でございます。私からの報告は
以上です。どうもありがとうございます。

新谷 康 第32回日本医学会総会幹事長 総会
の幹事長をしております新谷と申します。坂田準
備委員長が緊急対応ということで参加できません

ので、私から準備態勢についてご報告をさせてい
ただきます。

組織委員会は第31回東京大会のご指導の下、
同じように委員会を作っております。それぞれの
委員会ですでに活動を開始しております。特に
いちばん重要な学術委員会は学術委員長の指導の
下、基礎、臨床、社会、医工、産学連携、それら
の分野の委員の先生の選出もほぼ終了してしま
うので、今後、テーマを決めて、柱を決めて、学
術プログラムを作成していきたいと考えておりま
す。

特に医学会に加盟されている学会に連携してい
ただいて、ぜひとも横断的な取り組みを澤会頭は
していきたいとおっしゃっておりますので、ご支
援をよろしくお願いいたします。また Under 40
の企画につきましても、やはり第31回と同じよ
うに続けていきたいと思っております。私のほう
からは以上です。ありがとうございます。

議長 (門脇 孝日本医学会長) 澤会頭、また坂
田準備委員長の代理として新谷幹事長からご報告
をいただきました。澤会頭からご発表がありまし
たように、すでに準備態勢が相当整ってきてすば
らしいテーマ案もいただきまして、これから約3
年後ということになりますけれども、第32回日
本医学会総会が大成功になりますよう、澤先生ご
準備のほどどうぞよろしくお願いいたします。ま
た、日本医学会としても最大限の協力をさせてい
ただきたいと思っております。

■ 2023年度日本医学会年次報告の件

議長 (門脇 孝日本医学会長) 2023年度日本
医学会年次報告についてご報告いたします。お手
元の資料1の1ページをご覧ください。

第31回日本医学会総会の開催報告については、
昨年6月23日開催の臨時評議員会にてご報告い
ただきましたので詳細は省略いたしますが、寄附
金に関しての追加報告を第31回日本医学会総会
会頭の春日雅人先生よりお願いいたします。

春日雅人 第31回日本医学会総会会頭 ご紹介
いただきました春日でございます。昨年の6月以
降支払い等の残務整理を行いまして、最終的に

2,200万円の余剰金が出るのが判明いたしました。これに関しましては、日本医学会の活動に有効活用していただくのが筋ではないかというように考えまして、日本医師会のご理解も得まして日本医学会に寄附をいたしました。よろしくお願いたします。

議長（門脇 孝日本医学会長） 第31回総会の春日会頭ありがとうございました。このような形で総会の余剰金を日本医学会に寄附していただけるのは長い歴史のなかでも初めてでございます。日本医師会のご理解も得て、この2,200万円を日本医学会の活動の発展に有効に用いさせていただきますと思います。

続きまして第32回総会の準備状況でございますが、先ほど澤会頭、坂田準備委員長代理の新谷幹事長よりご説明いただきましたので省略させていただきます。

2. 日本医学会幹事会は本日この評議員会の前に開催され、本評議員会の議事についてお諮りいたしました。議案についてはご承認をいただいたということをご報告させていただきます。

3. 日本医学会臨時幹事会でございます。昨年6月23日に開催予定であった日本医学会臨時幹事会は時間的制約があったことから、協議事項について事前にメール審議にて幹事より了承をいただきました。主な議題は「日本医学会役員について」「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス2023」です。また、9月25日には「日本医学会会長選出方法の協議（10/13）及び会長選出（11/10）のための日本医学会臨時評議員会の開催について」、11月10日には「日本医学会 会長候補者の件」、12月15日には「日本医学会役員について」を議題として、それぞれweb開催させていただいております。

4. 日本医学会定例評議員会は本日のこの会のことですので省略いたします。

5. 日本医学会臨時評議員会は6月23日にweb開催いたしました。主な議題は、「日本医学会役員について」「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス2023」です。また、10月13日には「日本医学会 会長選出方法について」、

11月10日には「日本医学会 会長の選出について」、12月15日には「日本医学会 役員の選出について」を議題として、それぞれweb開催いたしました。

6. 日本医学会シンポジウムは医療関係者を対象に年2回開催しております。第162回シンポジウム「医学教育の在り方を見直す」は6月3日（土）に新型コロナウイルス感染症を鑑み無観客にて収録のみとし、第163回シンポジウム「心と脳と体をつなぐ神経免疫」は12月16日（土）に4年ぶりに集合形式で開催いたしました。いずれも日本医学会ホームページで動画配信を行っております。また、本シンポジウムの企画を立てる企画委員会を5月と10月に開催いたしました。

7. 日本医学会公開フォーラムは一般の方を対象に年2回開催しております。第33回フォーラム「移植医療の現状と課題」は6月17日に無観客にて収録のみとし、第34回フォーラム「女性医療を取り巻く課題」は11月25日に集合形式で開催いたしました。いずれもホームページで動画配信を行っております。この企画を立てる企画委員会もシンポジウムと同様年2回開催いたしました。

なお、先ほどご紹介しました第34回日本医学会公開フォーラム「女性医療を取り巻く課題」の動画配信については、全国大学院医学系研究科長、大学医学部長、医科大学長宛に周知依頼を发出了いたしました。

8. 日本医学会協議会は日本医学会会長、副会長と日本医師会の担当副会長の角田先生と担当常任理事の釜范先生に出席いただき、毎月1回、年12回開催をしております。

9. 日本医学会正副会長会議は2024年より新たに発足させました会議で、日本医学会の会長、副会長で3か月に1回程度開催する予定で、日本医師会のご理解をえて開催することになりました。第1回の会議を2024年1月26日に開催し、各委員会の担当や次年度の会議の予定等、医学会の内部的なことについて協議いたしました。

10. 日本医学会医学用語管理委員会は、日本医学会としては最も歴史の古い委員会で大江和彦委

員長をはじめ12名の委員と協力会社で構成されており、日本医学会用語辞典web版は現在日本医学会ホームページで公開されておりますが、医学領域における、電子化された専門用語データベース資源になることを目指して改訂を行う予定で、現在準備を進めています。今年度は1回開催されました。本委員会の下には次の3つのワーキンググループがあり、それぞれ活発な活動を行っております。

なお、昨年もお願いをいたしました、医学用語の変更は非常に広い分野で影響がでます。各分科会で医学用語の変更を検討される場合は、本会にご一報いただきますよう改めてお願いいたします。

11. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループは、辻 省次先生が座長のワーキンググループでございます。遺伝学に関する用語は、医学や教育等、広い分野で関係することから、医学用語管理委員会のもとに設けられたワーキンググループで、今年度は1回開催され、資料にあるような内容について検討を行いました。

12. 不適切語を含む医学用語の検討ワーキンググループは、森内浩幸先生が座長のワーキンググループでございます。2022年に現在の名称に変更された形で活動を続けております。資料にありますような内容について検討をしております。

13. 用語表記基本指針策定ワーキンググループは、医学用語における用語の表記方法の基本方針を策定することを目的としたワーキンググループでございます。座長は久具宏司先生、委員は幅広い分野の用語の専門家により構成されております。今年度は1回開催され、漢字やカタカナに関すること等々について検討いただきました。

14. 日本医学会分科会用語委員会は、分科会から選出された用語委員の方々に集まっております。年1回開催しております。今年度は2024年1月15日にwebで開催いたしました。開催内容については近日中に、日本医学会ホームページに掲載する予定です。

15. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会でございます。医学賞・医学研究奨励賞の選

考は、日本医学会が日本医師会より委任されております。日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会は8月25日に開催し、受賞者を選考しました。医学賞4名、医学研究奨励賞は15名の方に授与され、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰されました。受賞者の名簿は、資料をご確認いただければと思います。

16. 日本医学会加盟検討委員会では、日本医学会への加盟申請の審査のほか、加盟のあり方等も検討しております。本審査は、日本医学会加盟検討委員会報告(2021年5月)に示された審査基準に基づいて行われております。2023年度審査結果につきましては、協議事項でお諮りいたします。

17. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会は、福嶋義光先生が委員長で、遺伝情報の取り扱いや質保証、提供体制などについて検討しております。今年度は6回開催されました。昨年6月に成立しました「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律」に関する提言を委員会として取りまとめいただきましたので、後ほど協議事項でお諮りいたします。

18. 日本医学会利益相反委員会は、土岐祐一郎先生が委員長で、今年度は曾根三郎元委員長のもと5月に2回、南学正臣前委員長のもと11月に、それぞれ開催いたしました。今年度は「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」の一部改定作業を行い6月に2023年版として公表いたしました。

19. 日本医学会分科会利益相反会議は、今年度は開催の必要がなかった関係で開催しておりません。

20. 日本医学雑誌編集者組織委員会は北村 聖先生が委員長で、今年度1回開催いたしました。

21. 日本医学雑誌編者会議(JAMJE)総会・シンポジウムは、第12回を2024年2月6日に対面開催いたしました。後日、収録動画をホームページにて公開する予定です。

22. 研究倫理教育研修会は日本医学会連合の研究倫理委員会、診療ガイドライン検討委員会と日

本医学会の医学雑誌編集者組織委員会、利益相反委員会の4委員会合同で日本医学会と日本医学会連合が連携する形で、分科会を対象に年1回開催される教育研修会でございます。新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、2020年度から中止となっておりますが、2023年度は「研究者としての医の倫理とインテグリティー—新たな課題と対応」をメインテーマに6月に無観客収録し、映像を日本医学会ホームページに掲載いたしました。

23. 日本医学会総会あり方委員会は、日本医学会総会のあり方について、中・長期的な立場から検討を行うことを目的に発足した委員会で、委員長は高橋雅英先生です。本年度1回開催し、3月にも開催が予定されております。

24. 再生医療等レジストリ協議会は、日本再生医療学会よりご相談をいただき、2022年度に発足しております。新しい再生医療製品に関しては、従来、臨床試験や長い期間の治験を経たうえで審査が行われてきましたが、今後はある程度の症例で一度審査を行い、その後集積した症例で市販後調査を行うことで承認期間を短縮していく方向で検討を行おうというものであります。関連する分科会、PMDA、日本再生医療学会と連携をとりながら進めております。

25. 移植関係学会合同委員会は、1992年に厚生省（当時）の依頼を受けて、日本医学会長が合同委員会の世話人を務める委員会でございます。厚生労働省、日本医師会、関係学会で構成されております。本年度は施設認定については、8月に書面決議により開催され、心臓移植実施施設の認定の報告を関係各機関に行いました。現在、成人心臓移植実施施設ならびに腎臓移植実施施設の施設認定について審議中でございます。

26. 出生前検査認証制度等運営委員会は、NIPTを実施する非認定施設の増加により、妊婦に対して適切な遺伝カウンセリングが行われないうままNIPTを受検するケースが増えたことが問題視され、厚生労働省よりこの運営委員会を設置することにより、認定施設を中心に適切にNIPTが受検されるよう設置されたものでございます。2021年

6月の臨時評議員会にて承認されて設置されております。本年度は7月に開催し、3月にも開催が予定されております。

27. 日本医学会 e-News は、従来「日本医学会だより」として紙媒体で発行していたものですが、名称を改め「日本医学会 e-News」としてホームページで配信しております。本年度は5月と10月に配信いたしました。

28. 情報発信につきましては、日本医学会分科会の協力を得て、本会ホームページと分科会ホームページをリンクしております。日本医学会総会の開催や日本医学会への加盟申請および「日本医師会医学賞・医学研究奨励賞」の候補者推薦についての公示、公開フォーラムおよびシンポジウムの参加募集等について、ホームページから情報提供を行っております。

29. 会議等の開催数につきましては、お手元の資料の14ページから15ページをご覧ください。

30. 最後にその他として、報告書等について掲載いたしました。

年次報告については以上でございます。

■日本医学会予算

議長（門脇 孝日本医学会長） ここで日本医学会予算についてご報告いたします。番号が飛びますがお手元の資料3をご覧ください。2023年度の日本医学会予算総額は1億2,003万円でございます。これは日本医師会予算のなかから拠出されております。この予算で先ほど報告した事業を行ってまいりました。2024年度予算については、日本医師会の代議員会の承認前のため資料として提示できませんが、2023年度と同額の予算を日本医師会より認めていただいております。

以上が駆け足でしたが2023年度の報告事項です。ご質問、ご意見はございますでしょうか。ご質問やご異議のある方がいらっしゃいましたらzoom画面下にあります「手を挙げる」ボタンを押してください。いかがでしょうか。

それでは、これが報告事項でございますがお認めいただいたということで協議事項に移らせていただきます。

協議事項

■ 2024 年度日本医学会事業計画

議長（門脇 孝日本医学会長） 協議事項 1 番、資料 2 の 2024 年度日本医学会事業計画をご覧ください。ここに目次がございます。この目次は先ほどご報告いたしました 2023 年度の年次報告とほぼ同じものになっております。2024 年度も引き続き 2023 年度と同様の形で活動をしてまいりたいと思っております。もちろん新たな提案等が分科会からございました場合には、この事業に随時加えていきたいと考えております。

冒頭申しましたように、142 の分科会からのさまざまなご意見やご提案を大切に進めていきたいと思っておりますので、現在提示させていただいておりますのは 2023 年度を踏襲したものでございます。繰り返しとなりますが新たな事業の提案等について今後、随時ご意見をいただければと思います。2024 年度事業計画について、先生方からご質問、ご意見等はございますでしょうか。

ご意見がございませんので、承認の手続きに入りたいと思います。2024 年度事業計画についてご承認いただけますでしょうか。ご承認いただける方は「手を挙げる」ボタンを押してください。（挙手）

過半数を超えていることを確認いたしましたので、2024 年の事業計画はお認めいただいたものといたします。

■ 2023 年度（令和 5 年）日本医学会加盟学会

議長（門脇 孝日本医学会長） 協議事項の 2 番目、2023 年度日本医学会加盟学会の件についてです。森 正樹委員長にご説明をお願いいたします。

森 正樹加盟検討委員会委員長 2023 年度は 19 の学会から加盟申請の依頼がございました。加盟検討委員会での書面審査を経まして、最終的に 3 学会について議論を行いました。その結果、日本臨床免疫学会を加盟学会として新たに推薦したいということになりました。

日本臨床免疫学会は、臓器・疾患・分野横断的な臨床を中心に構成されたものでございまして、ヒト免疫学からの臨床応用、疾患克服を目指している学会でございます。会員数が 1,600 名弱ということで、各種の学術雑誌を有しているか等いろいろな条件も満たしていることが確認できました。

設立から 50 周年を迎えているということと、なにより他の加盟学会との重なりが少ないということで独自性があるということで、分科会としてふさわしいと判断し推薦申し上げる次第でございます。どうぞご討議よろしくお願いたします。

議長（門脇 孝日本医学会長） 森先生ありがとうございました。ただ今の森加盟検討委員会委員長からの報告で、委員会としては日本臨床免疫学会を推薦したいということでございます。先生方からご質問、ご意見等はございますでしょうか。

それでは承認プロセスに入ります。2023 年度加盟学会として日本臨床免疫学会をお認めいただけますでしょうか。ご承認いただける場合には、「手を挙げる」ボタンを押してください。

（挙手）

参加者の半数以上の賛成を確認させていただきましたので本件は承認されました。なお、本日お認めいただきました日本臨床免疫学会につきましては、3 月 19 日に開催されます第 12 回日本医師会理事会へ報告し、そこで機関決定することが定款に定められておりますので、それまでは本事項は公表しないようお願いいたします。

■学会の名称変更

議長（門脇 孝日本医学会長） 協議事項の 3 番目、学会の名称変更の件についてですが、こちらも森加盟検討委員会委員長にご説明をお願いいたします。

森 正樹加盟検討委員会委員長 加盟学会につきまして、加盟を認められた後に学会名を変更するということがございます。その場合、類似の名称を有する学会との衝突が生じるということがこれまでございましたため、資料 5 に示しますように明文化してその対応を行うということになりました。

重要な点は、名称変更を希望する場合は1年前までに日本医学会に連絡をしていただき、そして全加盟分科会にその旨を通知すること、そして賛成なり、反対なりのご意見をいただくということで対応するというごこととでございます。全加盟分科会が異議なしとした場合には変更をお認めする、異議ありとする場合は基本的には討議を重ねていただく、そして最終的に判断に持っていくというようなプロセスを明文化したものでございます。

今回、日本臨床栄養代謝学会と日本リンパ網内系学会から、学会名称変更の依頼がございました。日本臨床栄養代謝学会は日本栄養治療学会に、日本リンパ網内系学会は日本リンパ腫学会に名称を変更したいというごこととでございます。

それぞれ、全加盟分科会から基本的には賛同を得られたということで、お認めいただきたいというごこととでございますが、日本臨床栄養代謝学会につきましては、日本医学会に加盟しております他の1学会および加盟はまだしておりませんが、似たような名称を持つもう1つの学会、合わせて3学会の間で討議を重ねていただきまして、最終的にはその3学会すべてが合意する形でこの日本臨床栄養代謝学会の名称を日本栄養治療学会に変更するという円満な形でその3学会間では認めていただいたということで、それを踏まえまして141加盟分科会に審査をお願いしたところでございます。最終的にはそちらも賛同を得たというごこととでございますので、この2点についてご討議をお願いできればと思います。以上でございます。

議長(門脇 孝日本医学会長) 森先生ありがとうございました。以上が経緯になりますが、これを踏まえまして、日本リンパ網内系学会は日本リンパ腫学会に、日本臨床栄養代謝学会は日本栄養治療学会への名称変更についてご審議いただきたいと思っております。ただ今の森先生のご報告についてご質問、ご意見等がございますでしょうか。特にないようですので、承認のプロセスに入ります。ご承認いただける場合は「手を挙げる」ボタンを押してください。(挙手)

過半数を超えていることを確認しましたので、

本件は承認されました。なお、1点私のほうからお願いがございます。

この資料は学会の名称変更につきまして、2021年6月18日の臨時評議員会で承認をいただいている内容でございます。ここには「日本医学会分科会の名称変更の際の対応」、基本的には名称変更を希望する分科会は2)にありますように、名称変更の1年前までに日本医学会に連絡をいただく。そして3)日本医学会事務局は、全加盟分科会に名称変更の希望があることを周知し、半年間の公知期間を設ける。4)日本医学会事務局は、名称変更によって問題が生じる可能性のある未加盟学会の意向について加盟分科会に聴取し、必要と判断した際は、変更希望分科会は当該学会との間で合意を得ていただく。

そして異議なしの場合には、このような公知期間の後に、本日承認していただきましたように、最終的には日本医学会定例評議員会にて承認を得るというごこととでございます。異議ありの場合には、ここに書いてあるようなプロセスで、順次ヒアリング等を行い、当該分科会同士の協議などを経て、最終的に6)分科会の合意が得られず異議申し立てについて妥当と判断された場合には、名称変更希望分科会は名称変更を取り下げるか、合意が得られる新たな名称にさせていただくということを含めまして、詳しくプロセスについてご承認をいただいているところでございます。

今回、このような承認プロセスを十分に勘案した形で本日のご提案に至っているところでございます。日本臨床栄養代謝学会から日本栄養治療学会への名称変更につきましては、このような名称変更についての取り決めを作るきっかけになりましたけれども、最終的にはこのような取り決めに従って、円滑に本日の提案に至ったものでございます。

日本リンパ網内系学会の日本リンパ腫学会への名称変更につきましては、このプロセスを踏襲して、本日の承認に至ったというごこととでございます。

改めまして、学会の名称変更には分科会に半年の公知期間を設けて、異議の有無を伺って対応いたしますので1年以上が必要になります。この点

をご理解いただき、必ず1年以上前にご連絡をいただければということをご改めをお願いいたします。

■「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律」に関する提言

議長（門脇 孝日本医学会長） 2023年6月9日に「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律案」が第211回通常国会で可決・成立し、6月15日付で公布と同時に施行されました。

本法律の可決、成立につきましては、2022年4月に日本医学会・日本医学会連合、日本医師会が連名でゲノム医療を適切に発展させるための提言として、ゲノム情報に基づく不当な差別等が行われないようにする仕組みを含めた提言を行ったところでございます。

この提言は後半部分が法律の部分を網掛けで示していきまして、そこに対するさまざまな提言という形で構成されていますが、いちばん最後のところに「検討」とございますが、政府は5年を目途としてこの法律の施行の状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとするかとされています。すなわち、昨年の6月15日から5年後となりますが、その内容について法律の内容に沿って具体化が行われているかどうかを確認するという建て付けになっておりますので、この法律案を具体化するに当たっての提言をアカデミアの代表として、日本医学会としてさせていただくということが今回の趣旨でございます。

本法律に基づいて策定される基本計画ですね、第二部（各論）のところは法律について逐次的に示してあります、それが網掛けのところでございます。

第三条（基本理念）ゲノム医療施策は、次に掲げる事項を基本理念として行わなければならないということで、ゲノム医療の研究開発および提供に係る施策を相互の有機的な連携を図りつつ推進

する、そして世界最高水準のゲノム医療を実現し、その恵沢を広く国民が享受できるようにすること、というのが1番目です。

2番目は、ゲノム医療の研究開発および提供には、子孫に受け継がれ得る遺伝子の操作を伴うものの、その他の人の尊厳の保持に重大な影響を与える可能性のあるものが含まれることに鑑み、その研究開発および提供の各段階において生命倫理への適切な配慮がなされるようにすること。

3番目として、生まれながらに固有で子孫に受け継がれ得る個人のゲノム情報には、それによって当該個人はもとよりその家族についても将来の健康状態を予測し得る等の特性があることに鑑み、当該ゲノム情報の保護が十分に図られるようにするとともに、当該ゲノム情報による不当な差別が行われることのないようにすること、この3つの基本理念がございます。

それぞれの法案の内容に応じて、具体的な提言を黒の丸で示した内容として提案しているという建て付けになっているということです。

日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会の委員長は福嶋先生ですが、ゲノム医療法の基本計画を作成する際に考慮すべき事項を提言としてまとめ、国に提出することを目的として6回の委員会を重ね検討していただきました。その後、委員会で取りまとめた提言案について、昨年12月には全分科会への意見募集を行い、その結果、全面的に賛成というたくさんのご意見とともに、23の分科会から建設的なご意見をいただき、再び委員会を開催し、いただいたご意見を可能な限り取り入れ反映させていただいた最終案となります。

また日本医師会からも、医療界にとって重要な提言として賛同を得ております。本日の定例評議員会にて承認が得られましたら、日本医学会・日本医学会連合、日本医師会の連名で発信する予定としております。本提言につきまして、すでに142学会の意見募集によりいただきました23の分科会からのご意見も取り入れられたものとなっておりますが、この段階で先生方からご意見、ご提案、ご質問がありましたら受け付けたいと思います。いかがでしょうか。

特段のご意見がないようですので、承認プロセスに入りたいと思います。

ご承認いただける場合、「手を挙げる」ボタンを押していただければと思います。

(挙手)

過半数を超えましたので、本案は承認されました。なお、本日お認めいただきました本最終提言につきましては、3月13日に日本医学会・日本医学会連合ならびに日本医師会で合同の記者会見を予定しておりますので、それまでは公表しないようお願いいたします。

以上が協議事項になりますが、これまでのところでご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。ないようでしたら質疑応答にまいります。

■質疑応答

議長(門脇 孝日本医学会長) 全体を通じてご質問のある方は、いらっしゃいますでしょうか。特にご質問のある方はいらっしゃらないようでございます。

本日予定をした議題は以上のとおりでございます。皆様のご協力により時間内にすべての議題を終えることができました。これをもって第91回日本医学会定例評議員会を終了いたします。

冒頭で申しましたように、142学会の意見を十分に聞きながら連携をし、日本医学会としての重要なミッションを果たしてまいりたいと考えております。本日は大変ありがとうございました。